

トガリネズミ：日本で最小の哺乳類

トウキョウトガリネズミ (学名: *Sorex minutissimus hawkeri*) は、世界最小級の哺乳類です。この種は絶滅が危惧されており、鼻から尾までの長さはわずか 5cm です。釧路周辺の草原と湿原に住んでおり、昆虫を食べています。

トガリネズミはネズミに似ていますが、モグラやハリネズミとの関係の方が深い種です。トウキョウトガリネズミは、北海道に固有のトガリネズミ 4 種の 1 つです。

「トウキョウトガリネズミ」という名前は、表示の単純な誤りから生じたものです。トウキョウトガリネズミが明治時代 (1868～1912 年) に発見された際、その標本には北海道を意味する「Ezo」という表示がありました。しかし、「Ezo」が東京の旧名である「Edo」と後に誤読され、それが定着したのです。